

議会は三月、六月、九月、十二月の年4回が定例会です。四月、五月は臨時議会が必要に応じて開催される他、休会中の審議・各委員会、全員協議会等が開催されます。この期間に議員はそれぞれ議員活動や研修などを行います。4月は新年度が始まり、入学式などの行事に参加したほか、一部事務組合など関係する団体の新年度予算・計画を審議しました。

高速道路 用地委員会発足 いよいよ本格スタート

尾道松江線の工事が道路公団の改革で二年間頓挫してまいりました。全国の路線の見直しの中で、この路線は有料道路では採算はとれないが絶対必要であり、自動車専用道路として国が直接建設することになりました。そのため完成した道路は無料で通行できることとなります。

平成十七年度は用地買収と一部の工事に着手できる予算が確保されました。そのため今後早急に用地を買収するため三刀屋木次から吉田掛合まで地権者の皆様の協力を戴き話し合いを進めることとなりました。
去る四月十八日三刀屋町アス

パルにおいて各地区の地権者代表の皆さんと国交省、工事を担当する道路公団、県、市関係者が一堂に会して高速道路へのご理解と用地提供についての御協力を御願いしました。

用地単価は第三者機関により物価動向や民間の売買価格などを考慮し適正な価格に決定されます。

中国縦貫道までの早期開通は悲願です。十一月頃には一部工事で着手の予定です



早期再開が待たれる
吉田インター線トンネル

加茂町 名刹 光明寺を 訪ねて

司馬遼太郎が「街道をゆく」の「砂鉄の道」の中で光明寺を訪れています。製鉄技術が朝鮮半島を経て日本に伝来していること、九世紀に朝鮮半島で造られた梵鐘がなぜかこの光明寺に有ること。司馬は朝鮮半島との関わりを探るため、在日の考古学者、李(リ)シンキ(氏)らと共に宍道湖のほとりに古代を思い、この地を訪れています。

国内に朝鮮鐘と言われるものが五十四個有るそうです。

この鐘は一三七九年、伯耆富田の寺にあったものが一度他に移って一四九二年、今から五三三年前にこの寺に移ってきたと有ります。

約三〇年前、あの白い頭の司馬遼太郎がどんな思いでこの鐘を見上げたのでしょうか。

爽やかな風の中、彼が佇んだ場所に立つてみてはいかがでしょう。

加茂町を後にして司馬遼太郎は「たたら」の里、旧吉田村を指しています。司馬が感じたものは…。

吉田村編は次号。司馬遼太郎が辿った道、興味沸きませんか。雲南市の大きな観光ルートだと思います。



「良い建物です・・・ぼう然と仰いだきりだった」と司馬遼太郎が表現した光明寺

地域委員会

メンバーが決まり活動開始

合併後の地域の様々な不安解消や行政への意見提案など重要な役割を果たす「地域委員会」がスタートしました。

地域委員会ではこれまで旧町村で行われてきた「文化祭」や「運動会」などの行事計画や今年度予算に組み込まれた「地域振興補助金」の活用方法の決定など重要課題を審議していただきます。

五月二十七日には全ての地域委員会への説明会を兼ねた総会が開催される予定です。

地域自主組織の早期立ち上げと活発な活動が期待されます。

編集後記

一ヶ月の早さを感じます。ホームページも宜しくお願います